

合同支部会(研修会&交流懇親会)が開催された

11月18日(土)午後から19日(日)にかけて、令和元年以来4年ぶりに、箱根湯本温泉「ホテル南風荘」において開催された。石井理事長の開会の挨拶の後、賛助会員7社がそれぞれの新商品の紹介や商品の特性などを説明・PRした。組合からは、「マスクフィットテスト測定機器貸出事業」「2022年度実質年間生産高調査結果」「2023年度会員企業業績調査(2022年度分)集計結果」などの説明が各担当委員長からあった。



研修会は、(株)総合車両製作所の技術部マイスターの神田豊氏を講師に迎え、「溶接のひずみについて」という演題で開催された。(要旨は別掲)日頃なかなか伺うことができない、非常に専門的な話を伺えて、大変有意義な研修であった。

研修会「溶接のひずみについて」要旨 神田豊氏



アーク溶接は130年あまりの歴史があり、その気密性・水密性や作業時間の短縮など、経済性に優れる事から、各分野で広く使われる様になって来た。

その後、休憩をはさんで、賛助会員との交流懇親会が開催され、仕事に関する情報交換が行われるとともに、親睦を一層深めることができた。

造船業界ではリベット接合構造から溶接接合構造に移行して来て、その反面で溶接部の熱影響による金属組織の変化により、冷海域に入ると脆性破壊で亀裂が生じたり、残留応力による「ひずみ」が生ずると言う問題を抱えて来た。

参加者は組合員32名、賛助会員12名、講師1名、鋼構造ジャーナル1名、事務局2名の計48名と盛況であった。

溶接で使用する材料(鉄)については、調質や熱処理の技術が発達し、低炭素鋼で、低温用鋼からハイグレードの高張力鋼に至るまで高性能な鉄が作れる様になり、その用途に合わせて選択出来る様になって来た。



しかし、「ひずみ」に関しては、あらゆる方策で極力抑えなければならず、現代でも「ひずみ」取り(修正)の技は人の「感・コツ・経験」に頼るところが多い。

是非、火の使い手となって自在に「熱」をコントロール出来る技を習得してほしいと願ってやまない。

写真のデータを希望される方は、お送りしますので、事務局までご連絡ください。

関東支部事務職員研修会 【小宮】

令和5年11月22日(水)、「東京芝とうふ屋うかい」(港区芝公園)において、令和5年度研修会が開催された。コロナ禍で一旦休止後、再開してから3回目の実施となる。10都県12名の組合事務局の職員が出席した。

研修会に先立ち、今回担当の新潟県の秋山理事長兼関東支部長がご挨拶をして退席され、後は日頃の事務に関する近況報告や情報・意見交換を行った。

会場は東京タワーのすぐ近くの、東京の真ん中の立地にもかかわらず、3方向を庭園に囲まれている閑静なレストランで、景色を楽しみつつ会食懇談し、より一層親睦を深めることができ、有意義な時間を過ごせた。



R J Nグレード部会研修会（山梨・静岡・神奈川合同研修会）が開催された 【柳川】

令和5年11月25日（土）午後、標記研修会が開催された。全国R J研修会での雑談から、隣接3県合同で研修会をやるということになり、第一弾として神奈川県で行うことになった。

内容を検討していると、素晴らしい大先輩、(有)原鐵工所の原功会長が頭に浮かんだ。原さんは御年90歳。「炙るのは小豆色までだ」が口癖で、他ファブがほぼ皆我流で熱矯正を行っている中、原さんは70年以上積み上げてきた知識、経験、技術の

3本柱が備わっている炙りによる熱矯正の名人である。高齢を理由に講師依頼をご辞退されるところを、半年間ラブコールを送り続け、何とかご了承いただいた。

研修会当日までに鋼材を刻んで用意し、効率的な段取りも考えてくださり、準備万全であった。当日も底冷えのする工場内で、予定の1時間を超えて実演を含むご指導をいただき、参加者全員が原名人の巧みな技や知識を目の当たりにし、薫陶を受けた。

もう一つの研修会場として、小学生から高齢者までを対象として、「鉄で作る！遊ぶ！学べる！」をコンセプトに、体験教室（アイアンプラネット）を開催している(株)コイズミの小泉学社長に、その運営などについてお話を伺った。

(株)コイズミでは、体験教室で製作した作品などを見せていただきながら、地域貢献や人材育成などのアイアンプラネットの意義などのお話を伺った。

参加者は山梨県が2名、静岡県が2名、神奈川県15名（Mグレード3名を含む）の計19名であった。移動中の貸切バスの中でも、また研修会後の懇親会においても、いろいろ情報交換ができ、有意義な研修会となった。

原会長さんと(有)原鐵工所の皆さん、小泉社長さん、土曜日にもかかわらずご対応いただき、ありがとうございました。



性能評価事前研修会が開催された

11月10日（金）午後、令和5年度後期の鉄骨製作工場性能評価に申請する3社に対し、事前研修会が組合事務所で行われた。講師は小原教育技術委員長、目黒事務局長。

①性能評価において資格証偽造により大臣認定取り消しとなった事案があったことから、工場審査時の資格証確認が徹底されるようになったこと、②新型コロナウイルス感染防止対応については、基本的な感染対策は継続し、有症者の出席は控えること、③コロナ禍において、審査時間短縮のため、審査員に事前に目を通していただけるよう、審査資料を審査日の2週間前までに当組合を通じて審査員に事前提出することは、2024年後期申請までは継続することなどの説明があった。また、申請書の具体的な書き方などについての質疑応答もあった。

小原委員長からは、全構協のHPからダウンロードした「鉄骨製作工場の基準マニュアル集(2022年2月改訂)」をモニター画面に投影しながら、工作基準や検査基準などについて詳細な解説があった。

受審の様子を記録した写真、経営理念を掲示した写真、手作りの会社案内などを回覧したり、これまでの受審の際のトピックスが提供され、多くの情報や知見を共有できた有意義な研修会であった。



令和6年度に受審予定の皆様へ

申請書様式と記入要領は全鉄評のHPに、工作基準などの基準マニュアル集(2022年2月改訂版)は全構協のHPの会員コーナーに掲載されています。

(ユーザー名とパスワードは組合までお問合せください。)

申請書の記載内容が年々細くなっており、データでの提出や建築士の資格証明がカード形式のものを求められるなど、以前と違っていただきますので、早めの準備をお願いいたします。

代表者人事 11月 岩原工業株式会社（横浜市） 長間明嗣氏（代表取締役社長） 澤田和夫氏（取締役）